

## 子ども・子育て支援に関するニーズ調査概要説明

### 1.調査の実施概要

ニセコ町では「第3期子ども・子育て支援事業計画(計画期間：2025(令和7)年度～2029(令和11)年度)」の策定に向けて、その基礎資料とするニーズ調査を実施し就学前児童及び小学生児童がいる世帯を対象に保育等の利用状況や利用意向などを把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

実施日	2024(令和6)年1月18日～3月1日
調査方法	調査票はWeb(Googleフォーム)にて作成し、QRコードをはがきに印刷して配布・Webにて回収(英語版の調査票は郵送で配布・回収)
調査対象	353件 ・就学前児童(0～6歳児)のいるニセコ町の全世帯 ・小学生児童のいるニセコ町の全世帯 ※住民基本台帳より抽出 ※世帯数は2024(令和6)年1月17日時点の世帯数
回収結果	就学前児童のいる世帯 92件 (回収率49.5%) 小学生児童のいる世帯 91件 (回収率39.2%)

### 2.ニセコ町の子ども・子育てを取り巻く環境(回答者属性)

#### ～就業前・小学生児童のいる家庭共通～

#### (1)子どもの年齢・人数

- 回答者の子どもの人数は1～2人で9割を占めており、3人以上の子を持つ回答の割合は5%未満。[前:問3] [小:問3]

#### (2)子どもの祖父母との近居状況

- 近居の祖父母がいない回答者が約8割。 [前:問8] [小:問8]

#### (3)子育てを主に行っている人

- 子育てを行っているのは、「父母両方」が約7割、「おもに母親」が約3割。[前:問10] [小:問10]

#### (4)保護者の就労状況

- 父親の就労状況は、約9割が「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」。
- 就学前の児童がいる家庭の母親は、「育休・介護休業ではない短時間就労」が約半数、「育休・介護休業ではないフルタイム就労」が約3割。小学校児童のいる家庭の母親は、「育休・介護休業ではないフルタイム就労」、「育休・介護休業ではない短時間就労」それぞれ約4割。
- 就業前、小学生児童のいる家庭ではどちらも共働き家庭が約8割。 [前:問11] [小:問11]

#### ～就学前の子供がいる家庭～

#### (5)保護者の今後の就労希望

- 就業前の子供がいる家庭の母親の今後の就労希望については、就労している場合では就労を継続する意向が9割。そのうち、「フルタイム以外での短時間就労を続けたい」が6割。「フルタイムへの転換を希望しているが実現は難しいと考えている」が3割。[前:問11-3]
- 就労していない母親の中で、「すぐ(1年以内)にでも就労したい」が約1割。「1年以上先に就労したい」が4割。希望する就労形態は、フルタイム以外での短時間就労の希望が6割、フルタイム

での就労希望は約 1 割。 [前:問 11-4]

ニセコ町の小学生以下の子どもを持つ家庭は子供の人数は 1~2 人。約 8 割の家庭が共働きで、祖父母が近居におらず父母両方で子育てを行っており、就労の意向も強い。

### 3.教育・保育施設の利用

#### 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と意向(就学前の子どもがいる家庭)

- 平日の定期的な保育事業を利用している回答者は約 8 割。利用している施設は、幼児センターの長時間保育が 8 割、幼児センターの短時間保育は 1 割。ファミリーサポートセンター、幼稚園、認可保育園の利用はそれぞれ 1 割未満。 [前:問 12-1]
- 利用日数は週 5 日が 9 割超。 [前:問 12-2]
- 保育事業の利用意向は、現在、ファミリーサポートセンターの利用率が 5%未満と低いものの、利用意向は約 3 割。その他、認可保育所や委託訪問型保育(ベビーシッター等)への利用意向も 1 割以上。 [前:問 13]

幼児センターの長時間利用が現在の主な保育事業の利用となっているものの、ファミリーサポートセンターや委託訪問型保育など、幼児センター以外の保育事業の利用意向もあり、幼児センター以外の事業の充実も求められている。

### 4.地域の子育て支援事業(就学前の子どもがいる家庭)

#### ～「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用意向～

- 「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用意向は、利用したいという回答が約 6 割。希望する利用日数は週 5 日が最も多く約 4 割、次いで週 3 日が 3 割。 [前:問 14]

#### ～地域子育て支援センター「おひさま」～

- 地域子育て支援センター「おひさま」利用しているのは約 2 割。「おひさま」で利用している事業は、「おひさまひろば」が最も多く約 2 割、「保育開放」「にこにこ相談」「子育て講座」はそれぞれ 1 割程度。利用者は 1 年間に複数回利用している。 [前:問 15]
- 子育て支援事業「①にこにこ相談」「②子育て講座」「③おひさまひろば」「④出張遊び教室」「⑤休日保育」「⑥一時保育事業」「⑦ニセコ子育て MAP」の認知度は「④出張遊び教室」でやや低く約 3 割、それ以外の事業の認知度は約 6 割。 [前:問 17]
- ①~⑦の全て事業について、今後の利用希望は 4 割以上となっており、特に、行政に重点的に取組を期待するものとして「⑤休日保育」「⑥一時保育事業」が多く約 4 割。 [前:問 17]

地域子育て支援センター「おひさま」は、現在、利用実績がない家庭でも今後の利用意向が 4 割超となっている。要望が多いのは、親子同伴を対象とした事業よりも「⑤休日保育」「⑥一時保育事業」といった母子分離の保育への要望が多かった。

## 5.土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について(就学前の子どもがいる家庭)

- 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望は約6割。休日や長期休暇中の利用意向は土曜日よりやや低い約4割の希望があった。 [前:問18] [前:問19]

## 6.不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用(就学前の子どもがいる家庭)

- 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について「利用していない」が約7割に上っていたが、利用している回答者の利用実績(年間利用日数)は幼児センター(短時間保育)や幼稚園の一時預かり(一時保育)で、年30日以上利用している回答者が5名いた。 [前:問21]
- 不定期の教育・保育事業を現在利用していない理由は「特に必要がない」が約7割あるものの、保護者の通院や不定期な仕事、リフレッシュ等の目的での「一時預かり」利用意向は約6割。現在利用していない理由としては「必要がない」の他、「利用料がかかる・高い」「事業を利用できるかわからない」の理由がそれぞれ1割。 [前:問21-1] [前:問22]

## 7.病気やケガの際の対応について

### ～就業前の子どもがいる家庭～

- 1年間に子どもが病気やケガで定期的な教育・保育事業が利用できなかった保護者は約9割。対処方法として最も多いの「母親が休む」で8割。家族・友人以外の一時預かり等の事業の利用では病児・病後保育の利用は1件、ファミリーサポートセンター2件。 [前:問20] [前:問21-1]
- 病児・病後児保育の利用意向は5割を超え、希望する利用日数は年間4～6日の割合が多く約4割。 [前:問21-2]
- 小児科等医療機関に併設した施設を望む割合が8割、幼稚園・保育所等に併設した施設が2割。 [前:問21-2] [前:問21-3]
- 病児・病後児保育の利用を望まない理由で最も多いのは、「病気やケガの子どもを他人に見てもらうのが不安」で6割。 [前:問21-4]

### ～小学生児童のいる家庭～

- 小学生児童のいる家庭では、1年間に病気ケガで小学校に行けなかったことがあった家庭は約8割。学校に行けなかった場合の対処法は母が休むことが7割と多く、「父母のうち就労していないほうが子どもをみる」、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」がそれぞれ約2割。 [小:問12] [小:問12-1]
- 病児・病後児保育の利用意向は3割、利用したいと思わない割合が半数を超えていた。 [小:問12-2]

病児・病後児保育の利用を望まない理由は、「親が休んで対応できる」が約5割。「病気やケガの子どもを他人に見てもらうのが不安」は4割。 [小:問12-4]

不定期の教育・保育事業(宿泊を伴う一時預かり、病児・病後児保育など)は、利用実績が少なく、利用があっても利用頻度が低いが、複数日利用している利用者にとっては育児になくてはならない事業となっている可能性がある。また、利用意向を持つ割合は、実際に利用した割合より多く、共働き家庭の緊急時の対応の選択肢として重要と考えられる。

## 8.学童保育（ニセコ子ども館）放課後こども

～就業前(2024 年度入学)の子どもがいる家庭（小学校入学後の放課後の過ごし方）～

- 小学校入学後の子どもに過ごさせたい場所は、低学年では学童保育(ニセコ子ども館)が6割、自宅や習い事がそれぞれ5割だった。高学年では自宅が最も多く約5割、習い事約4割、学童保育(ニセコ子ども館)は2割だった。 [前:問 24]
- 土曜日、日曜日・祝日の利用希望は、土曜日については低学年の間は利用してほしいという回答が5割。高学年でも利用してほしいとした回答は1割以下。日曜日・祝日では、低学年の間は利用したい割合は約4割。 [前:問 24-1]
- 長期期間中の利用希望は低学年では約6割、高学年では2割だった。 [前:問 25]

～小学生児童のいる家庭～

- 小学生の放課後の過ごし方は、「家で家族と過ごす」「学童保育(ニセコ子ども館)」、「家で一人(もしくは兄弟のみ)で過ごす」の割合がほぼ同じ割合でそれぞれ約4割。高学年になると「家で一人(もしくは兄弟のみ)で過ごす」割合が高かった。 [小:問 13]
- 平日に「学童保育(ニセコ子ども館)」を利用したい学年は、4年生までが約3割と多かったが、5年生、6年生まで利用したいと回答した割合はそれぞれ約2割あった。土曜日の利用を希望する割合は5割を超えたが、日曜日は約3割だった。 [小:問 14-1 P90 P92] [小:問 15]
- 長期休暇中の利用の希望は9割超。 [小:問 14-1 P95]
- 学童保育(ニセコ子ども館)月額利用料の許容額については5,000円以内ならよいとする回答が最も多く約3割、3,000円以下ならよいが約2割。「有料なら利用しない」としたのは5%以下。 [小:問 17 P98]

学童保育に関しての利用意向は、平日は主に低学年で高いが、休日(特に土曜日)や長期休暇中は高学年でも利用したい割合が高かった。自由意見には、ニセコ町のサービス業従事者が多いため、休日が忙しくなる両親の支援を望む声もあり、ニセコ町の産業・就業形態に即した子育て支援内容が求められている。

## 9.子育て環境、子育て支援全般について

～就業前の子どもがいる家庭～

- 子育てのしやすさの評価で最も割合が高かったのは、中間の評価3が約3割。
- 「子育てしやすいと感じる」評価(評価4と評価5合わせた割合)と「子育てしやすいと感じない」評価(評価2と評価1合わせた割合)を比較すると、「子育てをしやすい」と感じる割合が約1割高かった。 [前:問 27]
- 平成31年実施した調査結果との比較では、今回の調査では「子育てしやすいと感じる」評価が約2%増加し、「子育てしやすいと感じない」評価に変化はなかった。 [前:問 27]

～小学生児童のいる家庭～

- 育てのしやすさの評価では、中間の評価3が最も多く約4割。
- 「子育てしやすいと感じる」評価(評価4と評価5合わせた割合)と「子育てしやすいと感じない」評価(評価2と評価1合わせた割合)を比較すると、「子育てをしやすい」と感じる割合が6.6%少なかった。 [小:問 18]

- 平成31年実施した調査結果との比較では、今回の調査では「子育てしやすいと感じる」評価が約1割減少し、「子育てしやすいと感じない」評価が約1割上昇した。 [小:問 18]

#### ～就業前・小学生児童のいる家庭共通～

- 「ニセコ小学校区」と「近藤小学校区」の地区別ではやや「ニセコ小学校区」のほうが「子育てしやすいと感じる」割合が高かった。 [前:問 27] [小:問 18]

## 10.子どもとの外出の際の困りごと

### ～就業前の子どもがいる家庭～

- 「子育てしやすいと感じない」の回答者の子どもとの外出の際の困りごとは、「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」で約7割。次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと」が約5割だった。 [前:問 27-1]

### ～小学生児童のいる家庭～

- 「子育てしやすいと感じない」の回答者の子どもとの外出の際の困りごとは、「歩道がない通りが多く、交通安全に心配があること」で約5割。次いで「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」が約4割。 [小:問 18]

小学校児童のいる家庭では登下校等1人で歩く機会が増えることが外出の際の困りごととして最も多くなったと考えられる。

## 11.育児休業や職場の両立支援制度について(就学前の子どもがいる家庭)

### ～就業前の子どもがいる家庭～

- 育児休業を取得した割合は父親が約1割、母親は約5割(働いていた母親を母数にすると7割超)。父親の約8割が育児休業を取得しておらず、その理由は「仕事が忙しかった」が約4割と最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が3割。 [前:問 26] [前:問 26-1]
- 母親が育児休業を取得しなかった理由で最も多いのが「自営業・農業等に就労しているため」が約3割。その他、「職場に育児休業の制度がなかった」が約2割の回答。 [前:問 26-1]

父親の場合は育児休業の制度があるにもかかわらず利用できない。母親は育休制度による支援を受けられず母親の就労や両立支援への課題があることが推測される。

## 12.自由意見 [P103]

- 子育ての不安や悩み、子育てをするうえで近所や地域に望むこと、ニセコ町の子育て支援に関する要望等を自由意見は104件。
- 意見が多く寄せられた項目は、「遊び場・居場所について」36件、次いで「子育て全般について」26件、「生活環境について」16件、「保育について」15件。

### ～各項目の主な意見～

#### ①保育について (15件)

- 就学前の子供がいる家庭では、幼児センターや「おひさま」の利用対象者や利用できる保育時間、曜日の拡大など利用しやすい制度。

- 病児保育の開設。 など

#### ②小学校・学童保育(ニセコこども館)について (7件)

- 学童の定員や利用時間の拡大。
- 町内の教育環境の改善や小学校以降の進学の見込みの少なさへの指摘。 など

#### ③子育て全般について (26件)

- 低学年から加入できるスポーツ少年団や習い事の見込みが少ない。
- 産後の育児にかかるコスト(給食費、利用料など)負担、補助金の要望。
- 仕事と育児の両立のための家事代行、子ども食堂など育児サポートが欲しい。
- ニセコ町の子育て環境整備についての満足・感謝。
- 外国語、勉強、教養を深める取り組みの要望。
- 不登校のための対応や制度の要望。 など

#### ④遊び場・居場所について (36件)

- 冬季や荒天時に子どもが体を動かせる屋内施設(プール含む)充実。
- 「ちびっこ広場」の遊具の修繕や充実。
- 各年代が遊べる遊具や施設の整備。
- プール施設の要望
- 幅広い年代が交流できる場
- 子どもが楽しめるイベント・祭りの要望とその情報発信の充実
- 洋服やおもちゃなど公が主催するイベントの要望 など

#### ⑤生活環境について (16件)

- 小売店スーパーの要望
- 交通安全への懸念(通学路・小学校～町民センターの信号設置)
- 医療機関の充実
- バスの増便や、下校時のバス時間の変更の要望(近藤小) など

#### ⑥その他 (4件)

- アンケートの匿名性がないことについて
- アンケートの設問数の多さの負担
- オムツごみの収集回数の増加
- 障がい者の理解の促進 など